

「凜として挑む」～未来永笑を目指し、「自らを律する力」と「自ら学ぶ力」を共に育む 山階南～



学校だより



令和6年10月 京都市立山階南小学校 校長 鈴木 洋一

Tel:592-2849 Fax:592-2851 E-mail:sankaiminami-s@edu.city.kyoto.jp

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月に実施した6年生対象の「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語科・算数科と同時に、家庭での過ごし方や学習時間等を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、全国の結果と合わせて本校の子ども達の概要をお知らせします。

総合結果(国語・算数)

全国平均と比べて、国語科は平均を下回りましたが、算数科は、若干上回りました。また、無答率においても、国語科・算数科共に全国平均と比べて低い(無答率が低い)ことから、児童が問題に向きあい、最後まであきらめずに取り組もうとする姿勢を感じました。

国語科

全国の平均正答率と比べると、知識及び技能における「我が国の言語文化」の領域においては、平均を上回りましたが、それ以外の項目では、全国平均を下回る項目がありました。その中で、2問紹介します。

●書くこと

「取材メモ」を見ながら、条件に当てはまる文章を書くというものです。この問題の正答率は45.5%(全国平均56.6%)でした。一番多かった誤答は、3つある条件のうち、「たてわり遊び」のよさについて書くという条件を満たしていないものでした。条件を落とさずに書くということと、どのように書くかということがわからない児童が多かったようです。学習の中でもキーワードを用いて答えるなど、あえて条件を提示して書く経験が必要だと考えます。

●「学びに向かう態度」

この問題は、文章を読んで自分の心に残ったところと、その理由を書くものです。この問題の正答率は73.9%(全国平均72.6%)と高かったのですが、無答率は12.5%となっていました。特定の答えがない問題ですので、「何をどのように書いたらいいのかわからない」という児童がいたように思います。普段から自分の考えを書いたり、まず書き方の例を示すなど、書くことに対する抵抗を少なくすることが、必要であると考えています。

算数科

算数科は、5つの領域に分かれていますが、今年度は「測定」領域からの出題はありませんでした。4つの領域の中では、「データの活用」では全国平均を下回りましたが、その他の領域では、全国平均を若干上回りました。

●「数と計算」

1問目は、 $72+28$ を、2問目は、 $\square+38=62$ を選ぶ問題です。これらは、ただの計算問題ではなく、数量の関係を捉えることができるかという問題です。文章の意味を捉えて立式する力が必要になります。そのために、文章問題では、図やイラストに表すことに慣れていく必要があります。

●「データの活用」

本校も全国平均もどちらも算数科の中で最も低かった問題です。(本校:39.3%・全国平均:44.0%)折れ線グラフから、3月に桜が開花した回数と4月に開花した回数を読み取ります。その上でその差が最も大きい年代を読み取る問題でした。2つの折れ線グラフの意味を読み取ることが難しかったようです。

●「図形」

作成途中の直方体の見取図について、辺の書き方で正しいものを選ぶ問題では、直方体の見取図について理解できていて、全国平均より高い結果となりました。一方、直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める問題では、球の直径の長さで立方体の一辺の長さを捉えて式に表すことに難しさを感じる児童が多かったようでした。

児童質問紙調査から

① 基本的な生活習慣について

「朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝る」「同じくらいの時刻に起きる」の3項目については、「している」「どちらかといえばしている」を合わせた肯定的な割合が、全国平均と同程度の結果となりました。学校に来てしんどくなってしまうたり、眠くて寝てしまったりすることがないように、特に土曜日や日曜日などの休日の過ごし方にも気をつけていただければと思います。

② ゲームや SNS の利用について

ゲームや SNS の利用時間については、全国平均とそれほど変わらない結果になりました。深刻なのは、4時間をこえて遊んだり、利用したりしているケースです。ゲームでは、18.2%の児童が、SNS では、10.4%の児童が4時間をこえているという結果になりました。オンラインゲームや SNS では、友達とつながったり、お気に入りの動画ばかり楽しめる仕組みがありますので、利用が長引いてしまうこともあるようです。

③ 自分について

「自分には、よいところがあると思いますか」と「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか」では、どちらも8割以上の児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答でした。自分のよさに気付くきっかけは様々だと思います。学校でも児童一人ひとりのよいところに着目して声かけを続け、児童が自分のよいところに気付いたり、自信をもったりしていけるよう支援していきたいと思っています。

保護者のみなさまへ

全国学力・学習状況調査は、結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。結果に一喜一憂することなく、自分の課題を発見したり、学習の仕方に活かしたりするようお声かけください。また、家庭での生活や、ゲーム、SNS については、ご家庭でルールややくそくを決めるなど、自分で決めたことを守って生活できるようにしていただけたらと思います。国語科と算数科の結果については、校内でも結果を共有し、授業や指導の改善につなげていきたいと考えています。